

「対女性共感覚に基づく着物の色目の考案」

2008年10月15日

岩崎純一

掲載サイト：<http://iwasakijunichi.net/>

目次

1. 主旨・目的
2. 対象とする女性
3. 方法（【1】～【4】）
4. 色目の詳細一覧

1. 主旨・目的

私が日本人女性に見た共感覚色を、着物の生地に割り当てることで、着物の色目を考案する。日本人女性に対する自分の共感覚に基づき、実際の着物を彩るものである。

現代には現代なりの伝統観があるし、一般の着物はそのように仕立てられるのであるが、このたびは、女性の身体の外にある生地・素材や生活環境に基づかず、女性の身体それ自体に私が共感覚でとらえた色彩を、可能な限り着物の色目にそのまま写し取るものである。

あるいは、若干早合点かもしれないが、本来の着物は、私が行うような方法、すなわち、人間の身体性や生理現象、人間の周囲にある自然現象に反しない形で仕立てられていたのではないかと思われる。

それでも、やはり自分自身の共感覚に基づいているため、私が主観的に好む着物の色目ができあがる傾向にあるが、常に自らの「対女性共感覚」を、日本一般の季節感や、着物に関する伝統習慣に照らし合わせつつ、丁寧さを心がけたいと思う。

「人間に色が付いて見える」特殊な感覚の保持者の存在は、すでに欧米を中心に報告され、「共感覚」と呼ばれる生理学概念の一分類とされるに至っている。

2. 対象とする女性

自分が十六歳以降に面識を持った女性のうち、同じく十六歳以上の女性を優先的に検討する。理由は次のとおりである。

(あ) 私自身の記憶の曖昧さを回避し、共感覚の精度を維持するため。

(い) 平均的な第二次性徴・月経周期の確立期以降の、私の共感覚色が安定的に想起できる女性を取り上げるため。なお、現在の私（二十五歳）が最も共感覚色を把握しやすい女性の多くは十八～二十七・八の女性である。十六・七歳の女性については、二十歳以前までの対女性共感覚をもとに記録する。

3. 方法

【1】共感覚色の描写

私が先の条件に当てはまる日本人女性の身体の各部位に見た共感覚色を、忠実に描きとめる。画材・言葉などを用いて描き出す。ただし、この段階では、色の境界などは考慮に入れず、見えたものをそのまま描き出すものとする。

【2】色の傾向の検討

【1】で取り出した共感覚色の傾向を検討し、グループ分けをする。ただし、「赤」や「青」といった厳格な色相によらず、全ての女性の基本色を網羅できるよう大まかに分けるものとする。

該当の女性の生理現象の深層に私が感覚する基本色を、のちに説明するように「生理色」と名付ける。一つの色目に対し、一色の「生理色」が存することになる。

同じ一人の女性であっても、その時々や行動などによって、見える共感覚色が様々であることもある。すなわち、女性 A の「甲」なる仕草と女性 B の「乙」なる仕草とが同じ色目で、女性 B の「丙」なる仕草と女性 C の「丁」なる仕草とが同じ色目であるようなこともある。

細かい部位の色が異なるものの、身体のほとんどの部位が同じ色彩である女性が複数いる場合、その精度を失うことがない限り、同じ着物の色目に分類することとする。ただし、それまでに描き出した色彩の中のいずれの傾向にも該当しないような特徴的な共感覚色が見える女性の場合、新たに色目（＝グループ）を作っていく。

【3】着物の各部位への割り当て

次に、【1】で描き出し、【2】で整理した共感覚色を、着物の各部位へ割り当てていく。実際に女性に見える共感覚色は、色ごとの明確な境界もなく、また色の流動もあるが、着物の各部位に対し、次のように女性の体の各部位を当てるものとする。

主に、女性の身体のある部位に見える色を、その身体の部位に直接触れる、あるいはその体の部位を隠すようにまとわれる着物の部位に当てる。

長着の文様については、縦方向・鉛直方向に色の境目や線を入れた場合こそ日本女性を美しく見せるものであると思うし、本考察で女性の体を主に横方向・水平方向に区切ったのは、あくまでも便宜上のことである。

これらの色目を元にして、実際に繊細な文様や線のある着物を作り、女性に着てもらおうとするならば、元の色目を崩さないようにするとしても、描く文様や線の方向には十分に留意すべきであると思う。

このあとに例として、同じ模様「初雪」、「名残袖」、「夢語」の色目を染めた場合の様子を示す。このように、女性の身体の該当部位を大きく外れない限り、色の配置を適宜調整しても一向に構わない。

*** 「生理色」**・・・その色目に該当する女性たちの様々な生理現象の根本を形作っていると私に感覚される色。

長着の表裏の色との違いは、色彩であるとは感覚されないほど、深層にある色であることである。例えば、海であれば、青が表の色、浮いている藻の緑などが裏の色、水の透明が生理色である。山ならば、遠くからでも目立つ葉の緑が表の色、山に近づくと見える緑以外の葉や花の色が裏の色、その深層にある土の色や岩石の灰色が生理色である。

長着の表裏の色は、いくら複雑な混じり合いになろうとも、この生理色を外れず、常にこれを適度に背後にほのめかすようにするのが良いと思う。

*** 「髪飾」**・・・女性の頭部（顔立ち）に見える色彩を象徴する。

頭部に見える共感覚色は、下腹部に見えるそれとともに、極めて繊細で流動的な色彩を呈するが、当然、頭部そのものは下腹部と違って長着で覆われないため、頭上に付ける髪飾、例えば簪・櫛・笄・リボンなどにその色を用いるとよいと思う。

*** 「表」**・・・女性に見える主要色彩群。面積が最大の色彩群。

頭から足までを覆うが、適宜部位ごとに分ける。

・「袖・袂」・・・腕・手・指に見える共感覚色を表す。

・「首・肩・掛衿」・・・首・項・肩周辺に見える共感覚色。

・「胸部・地衿」・・・肩から下、乳房までと、その部分と同じ高さの背中の部分に見える共感覚色。

・「上腹部」・・・乳房直下から臍または臍の少し上までと、その部分と同じ高さの背中の部分に見える共感覚色。

・「腰部・御端折」・・・「上腹部」より下から臍の少し下までと、その部分と同じ高さの背中の部分に見える共感覚色。

・「下腹部」・・・下腹部、臀部と、大腿の一部（足の付け根から 10cm 弱下まで）に見える共感覚色。頭部とともに、繊細で複雑、かつ流動的な色彩を呈するため、下腹部下層の色彩を当部位に当て、下腹部上層の色を帯の色とした。

・「足・裾」・・・大腿の残りの部分（70～80%）と、膝から下の部分全てに見える共感覚色。履物も、この色を基調とするとよい。

・「衽」・・・「胸部・地衽」から「足・裾」までの色に従う。それぞれの色を、「衽」の同じ高さの部分に当てるとよい。

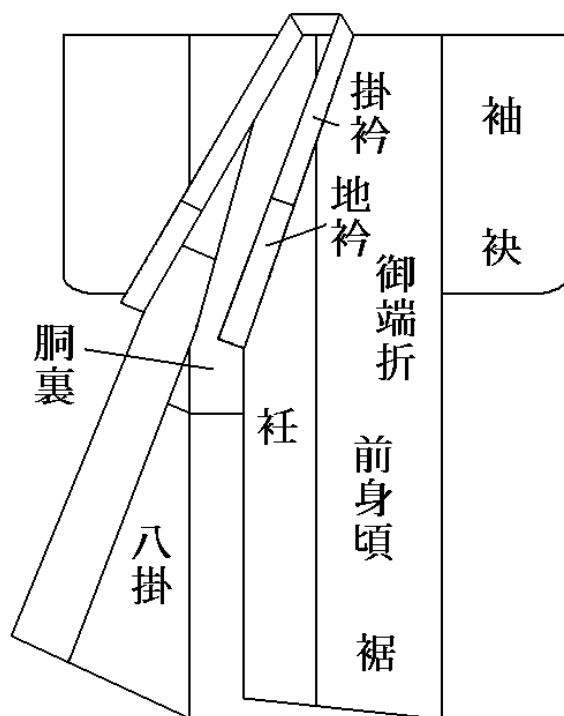
* 「裏」・・・女性に見える第二の色彩群。主要色彩群に次いで面積の大きい色彩群。表の色彩群に次いでほのめく色彩群である。

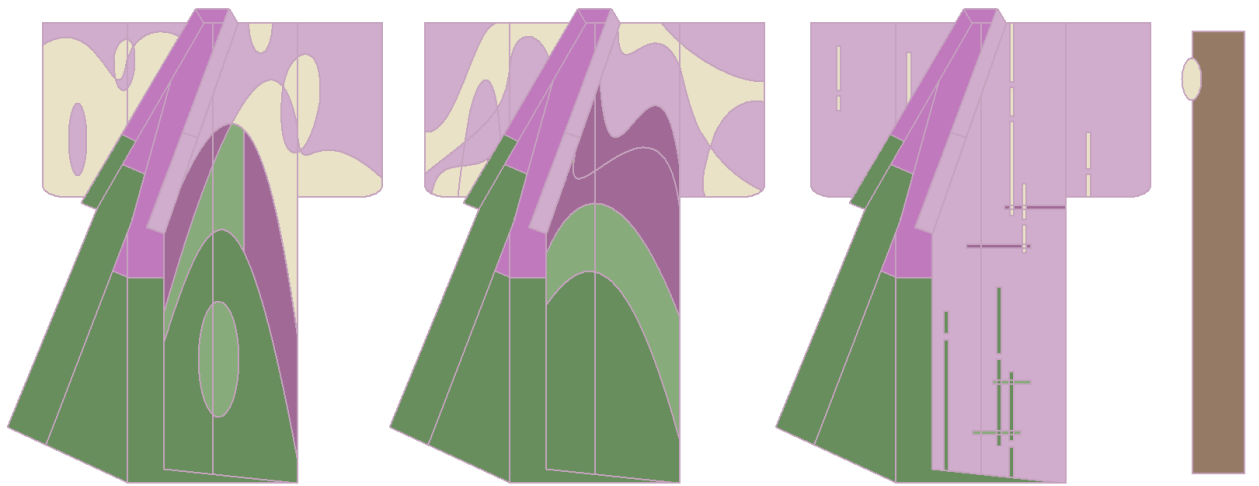
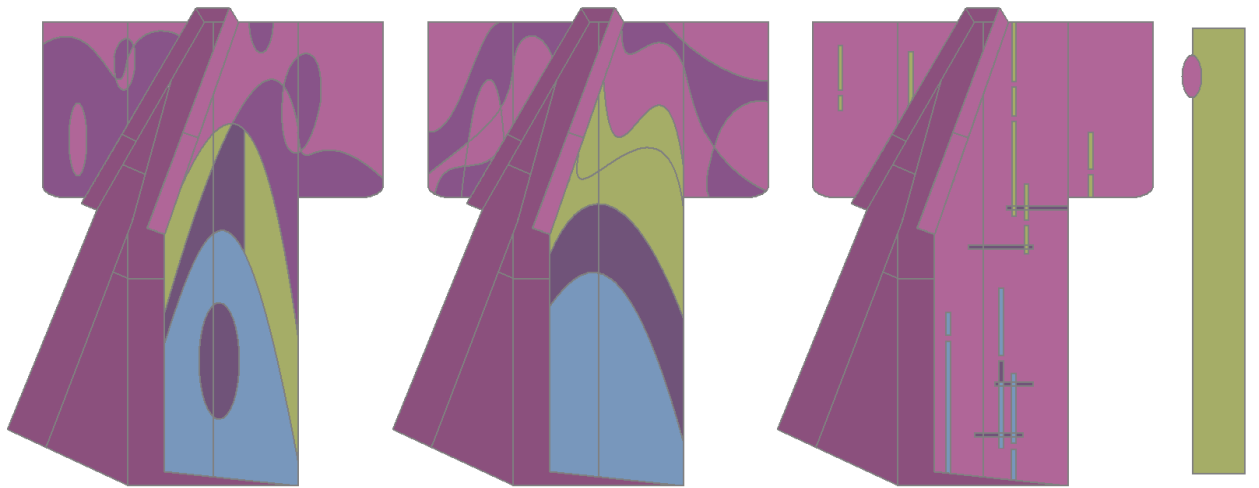
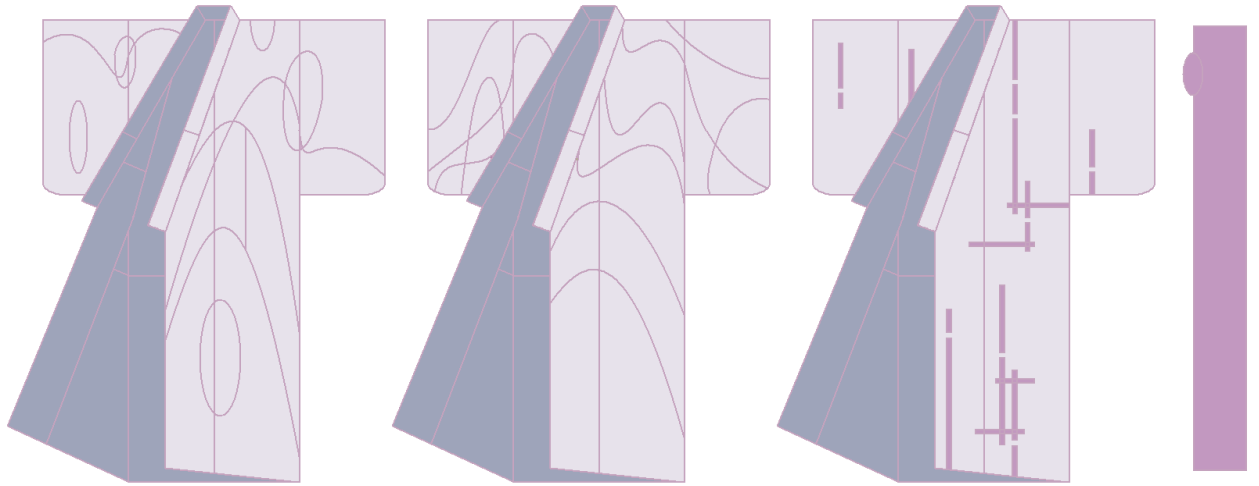
・「胴裏・袖裏」・・・臍周り・下腹部・大腿部・足を除く女性の胴体部の全て（首・肩・胸部・背中・臀部）と、腕・手・指に見える共感覚色。

・「八掛」・・・臍周り・下腹部・大腿部・足に見える共感覚色。

* 「帯」・・・長着の色目で表した女性の色彩よりも外側の、腰部から下腹部の周辺を、帯状に揺らめいている色彩。

↓順に、「初雪」、「名残袖」、「夢語」の染色例である。（右端の楕円は髪飾、長方形は帯。）





【4】 伝統色名での表記・色目の名称の決定

【3】で着物に割り当てた女性の身体の各部位の共感覚色を、最も近い日本の伝統色名で表し、さらにその色目全体の名称を決定する。

これらは、平安時代に用いられた襲色目（かさねのいろめ）などの手法に似ているが、次の点で襲色目とは異なる。

- * 【1】では、各女性の身体への自分の共感覚の忠実な再現のため、色彩語に関係なく、共感覚色そのものを記録した。そのため、伝統色名への置き換えにおいても、平安時代のみではなく、江戸時代など、あらゆる時代の日本の伝統色を用いている。
- * 女性の身体のあらゆる部位を元にしてしているため、長着の表裏の色の区別だけでなく、長着の各部位の色の区別、髪飾や帯の色の区別にもこだわっている。
- * ただし、着物の色目を、季節の風物や伝統習慣に基づいてではなく、女性の身体に対する自分の共感覚に基づいて定めたため、着用してよい季節などの規則がない。また、浴衣や振袖、訪問着など、あらゆる着物に応用できる。

「色目の詳細一覧」の各項目の説明は次のとおりである。

- * 「色目の名称」・・・基本的には、私自身が好む名称を付している。
ただし、着物の各部位に用いた色彩語の存在した時代に色目の名称に用いた語が存在したかを、なるべく検討した。例えば、「初夢」の女性の皆様に見える色を「藤紫」などで示したが、「藤紫」の語が存在した時代に、「初夢」なる語が存在したかを検討し、なるべく存在した語によって色目の名称を付している。
- * 「生理色」・・・先の「生理色」に該当する色を挙げてある。
- * 「髪飾」・・・先の「髪飾」に該当する色を列举してある。
- * 「表」・・・先の「表」に該当する色を列举してある。複数の色を用いた場合は、「袖・袂」「首・肩・掛衿」「胸部・地衿」「上腹部」「腰部・御端折」「下腹部」「足・裾」の順に列举してある。例えば、「名残袖」ならば、袖・袂・首・肩・掛衿・胸部・地衿の色が葡萄か蘇芳、上腹部・腰部・御端折の色が枯茶か媚茶、下腹部の色が藤か桔梗、足・裾の色が縹か浅葱である。ただし、セットになっている色どうしを用いると、より良いと思う。
- * 「裏」・・・先の「裏」に該当する色を列举してある。複数の色を用いた場合は、「胴裏・袖裏」「八掛」の順に列举してある。例えば、「朝露」ならば、胴裏・袖裏の色が群青か紺、

八掛の色が萌黄か松葉である。ただし、セットになっている色どうしを用いると、より良いと思う。

* 「帯」・・・先の「帯」に該当する色を列挙してある。

4. 色目の詳細一覧

「初夢」(はつゆめ)

生理色・・・藤紫

髪飾・・・長春、茜

表・・・藤紫、二藍　裏・・・長春、菖蒲

帯・・・牡丹、茜

「朝露」(あさつゆ)

生理色・・・露草

髪飾・・・縹、露草

表・・・松葉・縹・木賊・青竹・緑、萌黄・露草・千載緑・緑青・若竹

裏・・・群青・萌黄、紺・松葉

帯・・・縹、露草

「草枕」(くさまくら)

生理色・・・苔

髪飾・・・紅梅、桃、退紅

表・・・萌黄、青朽葉、苔　裏・・・千草、露草、納戸

帯・・・紅梅、桃、退紅

「夢通路」(ゆめのかよひぢ)

生理色・・・退紅

髪飾・・・退紅

表・・・退紅・水浅葱、灰桜・勿忘草　裏・・・水浅葱、勿忘草

帯・・・桃、桜、退紅

「初花」(はつはな)

生理色・・・桜鼠

髪飾・・・桜鼠、撫子

表・・・堇・桜鼠、杜若・撫子　　裏・・・堇、杜若、江戸紫
帯・・・牡丹、撫子

「舞姫」(まひひめ)

生理色・・・紅梅
髪飾・・・薄香、柿、朱
表・・・撫子、紅梅、鶺鴒　　裏・・・琥珀、白茶、狐
帯・・・薄香、柿、朱

「雨霧」(あまぎり)

生理色・・・墨
髪飾・・・紺、瑠璃、千草
表・・・墨、黒椽　　裏・・・墨、黒椽
帯・・・縹、紺、藍

「初雪」(はつゆき)

生理色・・・白
髪飾・・・桜、紅梅、桃、棟、勿忘草
表・・・白、卯花、胡粉　　裏・・・白、卯花、胡粉
帯・・・桜、紅梅、桃

「細声」(ほぞごゑ)

生理色・・・女郎花
髪飾・・・薄香、柿、朽葉
表・・・女郎花・菜の花、刈安・山吹　　裏・・・赤香、東雲
帯・・・薄香、柿、朽葉

「花菫」(はなむしろ)

生理色・・・桜
髪飾・・・桜、撫子、紅梅、鶺鴒、退紅
表・・・灰桜・桜、桜鼠・撫子、宍・鶺鴒　　裏・・・苔、千載緑、木賊
帯・・・苔、千載緑、木賊

「空薫」(そらだき)

生理色・・・勿忘草
髪飾・・・媚茶、江戸茶、枇杷茶

表・・・空、勿忘草、甕覗　　裏・・・空、勿忘草、甕覗
帯・・・煤竹、媚茶、鶯茶

「涙川」(なみだがは)

生理色・・・二藍
髪飾・・・千草、露草、群青
表・・・江戸紫、二藍、紺青　　裏・・・縹、千草、蒼碧
帯・・・千草、露草、群青

「月夜」(つきよ)

生理色・・・黒
髪飾・・・黄朽葉、鳥の子、生壁、白椽
表・・・黒・黄朽葉、墨・砥粉、憲法黒・芥子
裏・・・黄朽葉・黒、砥粉・墨、芥子・憲法黒
帯・・・黄朽葉、鳥の子、生壁

「星月夜」(ほしづきよ)

生理色・・・黒
髪飾・・・黄朽葉、生壁、黄土、夏虫、薄青
表・・・黒・黄朽葉、墨・砥粉、憲法黒・芥子　　裏・・・素鼠、銀鼠、灰
帯・・・素鼠、銀鼠、灰

「文枕」(ふみまくら)

生理色・・・栗梅
髪飾・・・桜鼠、苺、紅樺、躑躅
表・・・江戸茶、紅檜皮、栗梅　　裏・・・長春、蘇芳、琥珀
帯・・・桜鼠、撫子、鴉浅葱

「夕涼」(ゆふすず)

生理色・・・海松
髪飾・・・露草、浅縹
表・・・松葉・露草、海松・浅縹　　裏・・・雀茶・鶯茶
帯・・・白茶、胡桃

「若草」(わかぐさ)

生理色・・・青緑

髪飾・・・青緑、緑、若竹

表・・・若竹・萌黄、青緑・緑、青磁・常盤 裏・・・草、柳茶、苔

帯・・・青竹、千載緑

「初入」(はつしほ)

生理色・・・卯花

髪飾・・・桜、撫子、桜鼠

表・・・桜・白、撫子・卯花、桜鼠・胡粉 裏・・・桜、撫子、桜鼠

帯・・・桜、撫子、桜鼠

「雪斑消」(ゆきのむらぎえ)

生理色・・・白

髪飾・・・青緑、若竹、木賊

表・・・苔・白、萌黄・卯花、青緑・胡粉 裏・・・萌黄、草、緑

帯・・・堇、藤紫、藤鼠

「花筐」(はながたみ)

生理色・・・蘇芳

髪飾・・・桜、紅梅、桃

表・・・萌黄・葡萄・胡桃・焦茶、草・蘇芳・楊梅・栗皮、松葉・江戸茶・枯茶・煤竹

裏・・・萌黄、草、松葉

帯・・・桜、紅梅、桃

「淡雪」(あはゆき)

生理色・・・白

髪飾・・・撫子、桜、鴝

表・・・白、卯花、胡粉 裏・・・水、空、薄浅葱

帯・・・撫子、桜、鴝

「花雫」(はなのしづく)

生理色・・・桃

髪飾・・・白、卯花、胡粉

表・・・水浅葱・桜、露草・紅梅、勿忘草・桃 裏・・・千草、紅掛空、納戸

帯・・・白、卯花、胡粉

「時雨」(しぐれ)

生理色・・・縹

髪飾・・・縹、水浅葱、青

表・・・二藍・縹・黒、桔梗・水浅葱・滅紫、青鈍・青・鉄紺

裏・・・縹・黒、水浅葱・滅紫、青・鉄紺

帯・・・素鼠、鉛、銀鼠

「霧籬」(きりのまがき)

生理色・・・紺

髪飾・・・浅葱、納戸

表・・・素鼠・浅葱・紺・江戸茶・焦茶、柳鼠・納戸・熨斗目・栗梅・栗皮

裏・・・紺・焦茶、熨斗目・栗皮

帯・・・黒、憲法黒、黒橡

「玉梓」(たまづさ)

生理色・・・墨

髪飾・・・焦茶、灰汁、小豆、臙脂

表・・・墨・焦茶・江戸茶、黒・灰汁・枯茶 裏・・・墨・江戸茶、黒・枯茶

帯・・・江戸茶、枯茶、蘇芳

「枯生」(かれぶ)

生理色・・・媚茶

髪飾・・・紅、退紅、紅樺

表・・・蘇芳・朱華・紅・栗皮、茶・東雲・洗朱・媚茶

裏・・・紅・栗皮、洗朱・媚茶

帯・・・紅、枯茶、檜皮

「暮合」(くれあひ)

生理色・・・葡萄

髪飾・・・水浅葱、縹

表・・・葡萄・縹・紺・蘇芳、桜鼠・露草・群青・藤紫 裏・・・媚茶、煎茶

帯・・・江戸紫、蘇芳

「名残袖」(なごりのそで)

生理色・・・蘇芳

髪飾・・・紅梅、蘇芳

表・・・葡萄・枯茶・藤・縹、蘇芳・媚茶・桔梗・浅葱 裏・・・二藍、葡萄

帯・・・枯茶、媚茶

「雲滯」(くものみを)

生理色・・・薄墨

髪飾・・・水、浅縹

表・・・水・素鼠、浅縹・薄墨　裏・・・素鼠、薄墨

帯・・・素鼠、薄墨

「水棹」(みさを)

生理色・・・水浅葱

髪飾・・・媚茶、白茶

表・・・露草、水浅葱　裏・・・勿忘草、空

帯・・・媚茶、白茶

「忘花」(わすればな)

生理色・・・卯花

髪飾・・・桜、撫子

表・・・白、卯花、胡粉　裏・・・露草、水浅葱

帯・・・桜、撫子

「滯標」(みをつくし)

生理色・・・露草

髪飾・・・若竹、白緑

表・・・若竹・浅葱・焦茶、白茶・露草・生壁　裏・・・緑青・焦茶、緑・生壁

帯・・・浅葱、露草

「霜枯」(しもがれ)

生理色・・・桑染

髪飾・・・水浅葱、露草

表・・・水浅葱・草・白茶、露草・鶯・桑染　裏・・・白茶、桑染

帯・・・白茶、桑染

「夢語」(ゆめがたり)

生理色・・・撫子

髪飾・・・紅梅、退紅

表・・・紅梅・桜・紅藤・苔・緑、退紅・撫子・菖蒲・草・萌黄

裏・・・紅梅・緑、退紅・萌黄

帯・・・雀茶、煎茶

「竹端山」(たけのはやま)

生理色・・・松葉

髪飾・・・松葉、苔、萌黄、常盤

表・・・松葉・青竹・黄朽葉・琥珀・焦茶、苔・緑・櫛・桑染・媚茶

裏・・・松葉・焦茶、苔・媚茶

帯・・・焦茶、媚茶

「女波」(めなみ)

生理色・・・紫苑

髪飾・・・紫苑、江戸紫、菖蒲

表・・・桜鼠・紅梅・紫苑・縹、蘇芳・長春・江戸紫・群青

裏・・・熨斗目、藍鼠、鉄紺

帯・・・縹、群青

「姫街道」(ひめかいだう)

生理色・・・朽葉

髪飾・・・山吹茶、朽葉、茜

表・・・黄朽葉・朽葉・栗梅、女郎花・櫛・椽　裏・・・山吹茶、朽葉

帯・・・苔、草、青朽葉

「水無瀬川」(みなせがは)

生理色・・・藤紫

髪飾・・・浅葱、露草

表・・・藤紫・素鼠・白茶・蘇芳・浅葱、二藍・銀鼠・椽・小豆・露草

裏・・・藤紫、二藍

帯・・・素鼠、銀鼠

「香箱」(かうばこ)

生理色・・・朱華

髪飾・・・洗朱、蘇芳、紅

表・・・黄土・洗朱・赤香・茶・素鼠、黄朽葉・蘇芳・朱華・椽・灰

裏・・・穴、東雲

帯・・・朱華、柿

「袂露」(たもとのつゆ)

生理色・・・紅藤

髪飾・・・撫子、桜、桜鼠

表・・・二藍・紅・紅藤・藤紫・縹、堇・茜・紫苑・桔梗・紺

裏・・・灰、素鼠、銀鼠

帯・・・水浅葱、千草

「夕化粧」(ゆふげさう)

生理色・・・白

髪飾・・・桜鼠、撫子、鶺鴒浅葱、紅藤

表・・・白、卯花、胡粉　裏・・・桜鼠、撫子、鶺鴒浅葱、紅藤

帯・・・蘇芳、小豆、臙脂、紅樺

「湯化粧」(ゆげさう)

生理色・・・白

髪飾・・・東雲、珊瑚、退紅、穴

表・・・白、卯花、胡粉　裏・・・東雲、珊瑚、退紅、穴

帯・・・東雲、珊瑚、退紅、穴

「錦木」(にしきぎ)

生理色・・・玉子

髪飾・・・刈安、女郎花、鬱金、黄蘗

表・・・刈安・玉子・朱・茜、女郎花・山吹・朱華・紅　裏・・・紅樺、蘇芳

帯・・・朱、朱華、臙脂

「莎草」(ささめ)

生理色・・・鶯

髪飾・・・緑、青竹、白緑、裏葉柳

表・・・萌黄・緑・青朽葉・朽葉・焦茶、松葉・青竹・鶯・黄椽・煤竹

裏・・・緑青、木賊、千載緑

帯・・・萌黄、松葉、鶺鴒萌黄、草

「姫垣」(ひめがき)

生理色・・・鳥の子

髪飾・・・櫛、朱華、柿、薄柿

表・・・菜の花・樫・芥子・白茶・茶、刈安・朱華・鳥の子・桑染・煤竹
裏・・・琥珀、洗朱
帯・・・茶、煤竹

「結花」(むすびばな)

生理色・・・撫子
髪飾・・・撫子、紅梅、赤香
表・・・菜の花・撫子、女郎花・紅梅、刈安・赤香　裏・・・生壁、鶉茶
帯・・・紅梅、牡丹、躑躅

「夜桜」(よざくら)

生理色・・・桜
髪飾・・・桜、桜鼠
表・・・桜鼠・黒・蘇芳、桜・墨・桜鼠　裏・・・黒、墨
帯・・・桜、桜鼠

「風便」(かぜのたより)

生理色・・・浅葱
髪飾・・・水浅葱、露草
表・・・縹・水浅葱・群青、浅葱・露草・紺　裏・・・素鼠、銀鼠
帯・・・刈安、黄土、山吹

「花香」(はなが)

生理色・・・宍
髪飾・・・桜、撫子、牡丹
表・・・宍・媚茶・焦茶・萌黄、東雲・洗朱・椽・鶯　裏・・・桜、紅梅、桃、撫子
帯・・・桜、紅梅、桃、躑躅

「砂子」(すなご)

生理色・・・黄朽葉
髪飾・・・青朽葉、鶉萌黄
表・・・玉子・黄朽葉・朽葉・黄土・茶、女郎花・芥子・白茶・黄椽・生壁
裏・・・琥珀、砥茶
帯・・・苔、鶉萌黄、裏葉柳

「篠原」(しのはら)

生理色・・・青朽葉

髪飾・・・緑青、青竹、水浅葱

表・・・萌黄・緑青・緑・梅染・江戸茶、青朽葉・青竹・松葉・桑染・照柿

裏・・・焦茶、媚茶、煎茶

帯・・・萌黄、青朽葉、鶯

「寢覚」(ねざめ)

生理色・・・紺

髪飾・・・藤紫、紫苑、鶺鴒浅葱、紅藤、蘇芳

表・・・紺、藍、二藍　裏・・・鶯茶、千載茶、煤竹

帯・・・黒、黒橡、墨